

農業委員・農地利用最適化推進委員の紹介

7月21日(火)、農業委員会臨時総会で農業委員と農地利用最適化推進委員が任命されました。

任期は令和8年7月20日から令和11年7月19日までです。

今後、農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進を重点的に取り組みます。

岡広川町農業委員会事務局 ☎ 0943-32-1841

農業委員

農業委員会の会議に出席し、農地法に基づく許可などについて審議します。

会長



古賀貴美夫

会長職務代理者



馬場啓介



鐘ヶ江百合子



稲貝繁広



野田光浩



末安富士子



中島隆二



山村佳代子



丸山敬二郎



渡邊和江



稲貝雅史



田中健一

農地利用最適化推進委員

担当地区で、農地パトロールや意向調査などの現場活動を中心に取り組みます。



野中敏昭
小椎尾・梯・逆瀬谷



稲貝桂一
鬼ノ瀨・馬場
・内田・草場



中村哲之
吉常・一応・六田



梅本恵介
長延



山下憲繁
太原・高間
・清楽・清楽茶屋



馬場健作
久泉



中島善郎
増永・扇島



山下博利
川瀬・長徳・古賀
・川瀬北・緑ヶ丘
・北新代・牟礼茶屋



野田隆文
牟礼・当条



山下一男
智徳



渡邊和宏
一條



古賀優
藤田

※太田・吉里区は欠員

ヒロカワのあれやこれや 副町長のこぼれ話



公立病院で脳ドックを受診しました

■脳ドックの受診動機

広川町に来て1年ほど経ちました。広川町の食事がおいすぎて、体重の人生最高値を大きく更新してしまいました。30代でも脳卒中の発症リスクがあるため、新しく始まった脳ドックの受診を決めました。

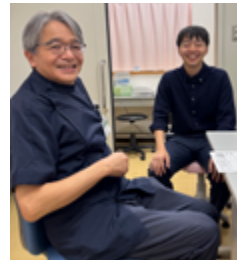
■脳ドック当日の様子

病院の窓口で脳ドックの流れについて説明を受けた後、スタッフの方が各検査場所まで案内してくださいます。ほかの患者さんの検査と重複せずに受診できるよう工夫されており、迷わず・待たずで、快適に過ごせました。とはいえ、何度やっても採血には慣れません……。脳ドックでは、一般的な健康診断では見たことがないような医療機器による診断を受けます。私は、頭部MRI検査を初めて受けました。検査中の轟音には驚きましたが、日常の生活圏において、これだけしっかりとした検査を受けられることに安心感も覚えました。



こんにちは。副町長の川畑です。8月に公立八女総合病院の脳卒中センターで、今年度から始まった「脳ドック」を受けてきました。「脳ドック」とは、脳卒中などの脳疾患のリスクを早期発見するために行う健康診断です。その様子や受けた感想などを紹介します。

終盤になり、脳卒中センター長の森岡先生から直接、脳の病気の解説や検査結果を説明していただきました。私の相談ごとについても丁寧に話を聞いていただけましたし、専門的な内容もわかりやすくお話をしてくださるので、これから日常生活を送っていく上でも、大変有意義な時間になりました。



■最後に

秋が深まり、気温が下がるにつれ、血管が収縮して血圧が高くなる傾向があります。皆さまには、入浴や外出時などの急激な温度差に十分に注意いただき、脳ドックの受診についてもぜひ検討ください。

脳ドックの受診を希望される方へ

以下の電話番号にて受診予約が可能です。

☎公立八女総合病院 ☎0943-23-4131

広川文芸

ひろかわ短歌会



夢に見た笑顔の母は手を振りてまだ来るなよとわれをとどめる	水田の稲は株太く伸び育ち猛暑の風をなびかせ揺れる	猛暑のなか孫の匠の電話あり「元気にしてね お盆に行くよ」	初夏の卓採れたておろし大根の甘み辛みの絶妙ハーモニー	煙の草引けば跳び出す虫たちに「秋が来るよ」と知らせをもらおう	一輪の蓮の花はうす紅に閉ぢてひそかな祈りのかたち	なまぬるき風は早朝いくぶんかわり始めて秋の近まる	薔薇のごと華麗なりし女傭くも老衰に散る岸恵子さん	玄関のお生花朝は凜として酷暑の夕には息も絶え絶え	なきがらを土に埋めよう熊蟬の羽切るほど啼きしこの夏	夜の通り雨久方ぶりの慈みとなり畑の野菜のしゃんと伸びたり	あゝおもふやうにはならぬことばかりたとへばわれの片足立ちよ	父さんに会ったことない孫ひ孫嫁婿おります盆のいちにち	アメリカへ七十七歳ひとり旅ななんとかなったぜ勇気を出せば	打ち水の心なしかの涼しさにアスファルトに溶く水蒸気あり
蓮子 住雄	結束 節子	姫野 洋子	鹿田 恵	山下 聖子	北川 順子	高橋 和子	外山ゆう子	有吉 冴子	青木佳代子	原 徹	山下 整子	野田 章子	山崎 信	溝田 幸

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

広川町にある巨樹・珍樹 その26

メタセコイア（ヒノキ科）

町内では、里山のふもとに真つすぐに伸びた背の高い樹木を見かけることがあります。その樹木はイチヨウが多い中、メタセコイアも最近よく見かけるようになりました。

上広川小学校の校庭には、校舎の南側と北側に、それぞれ1本ずつそびえており、
幹周 2・2メートル
樹高 約25メートル
推定樹齢 約50年
を測ります。

この木は成長が早く、真つすぐに伸びることから、街路樹として多く植栽されており、特に滋賀県高島市の並木が有名です。約2・4キロメートルにわたり、約500本の木が並んでおり、聞くところによると、45年前に植えられたとのこと。メタセコイアは落葉針葉樹で、アケボノスギ「曙杉」の和名がつけられています。ヌマスギモドキやイチイヒノキといった別称もあり

るようです。

この木は一属一種で、かうじて現存することから、化石植物ともいわれています。

この木によく似た樹木に、ヌマスギ「沼杉」の別称をもつラクウショウ「落羽松」がありますが、分類上は異なります。

ラクウショウを町内で見かける機会は少ないですが、以前は原田植物園（原田筑紫経営・現筑後市一条）に、天を突くようにそびえる樹木がありました。



▲上広川小学校校庭のメタセコイア

メタセコイアは中国原産で、日本の自生樹木ではありません。それにもかかわらず、前述したように真つすぐに伸びる性質や、成長の早さなどから、街路樹や記念樹などへ用途が拡大し、各地に高くそびえる姿を見ようになりました。ちなみに校庭の植栽樹は、何かの記念であることが多く、植栽に関わった当事者にとっては、いつまでも大切な思い出として記憶されているのではないのでしょうか。

広川町古墳資料館だより

8月26日㈪に久留米市から来館された江崎政子さん、西村ますみさん親子が、広川町古墳公園資料館の「来館20万人目」として資料館職員から記念品が贈られました。江崎さんと西村さんは「石人山古墳の

石人をはじめ、数千年も前のものがたくさん展示されている事に感動しました」と来館した感想を述べました。これからも広川町の歴史を発信し、皆さんが楽しみながら学べるイベントなどを企画していきます。



▲20万人目の来館者（写真左2人）